

# 新しい教育方法への挑戦を、学

～文部科学省「特色ある教育活動支援プログラム」現代的教育

本学の「連携と統合」の教育理念に基づく実績と今後の構想は、平成17年度文部科学省「特  
れました。これは、平成21年度に正式実施する4年生の必修科目「インタープロフェッショ  
おして、埼玉県内の保健医療福祉サービスの質向上を目指すものです。最近の取組みに

## ● 専門職連携演習(IP演習) 試行事業を実施しました

平成18年9月19日から22日にかけて、埼玉県比企福祉保健総合センター・東松山保健所管内の各施設・機関において、専門職連携演習試行事業を実施しました。この専門職連携演習(インタープロフェッショナル演習:通称「IP演習」)は、平成18年度入学生の4年次(平成21年度)に正式開講するものですが、今までにない新しい教育プログラムであることから、今後3年間試行的に実施し、授業内容を評価・構築していくものです。参加した学生は、看護・理学療法・作業療法・社会福祉の各学科の3～4年生の19人。学生は学科混合のグループを形成し、各演習機関の職員であるファシリテーター(学習促進者)の導きのもと、ご協力いただいた実際の患者・利用者の生活や援助課題から学びながら4日間を過ごしました。

なお、演習に協力いただいたのは、次の施設・機関です。埼玉成恵会病院/介護老人福祉施設東松山ホーム/社会福祉法人 昇・ハロクリニック/東松山市総合福祉エリア/東松山市立市民病院

### ● 福祉保健総合センターにてオリエンテーションの後、各演習機関へ

IP演習の初日にあたる9月19日には、比企福祉保健総合センター・東松山保健所にてオリエンテーションを実施しました。ここでは、演習期間中一緒に過ごすこととなる学生同士が初めて顔を合わせ、チーム作りを行ったほか、比企福祉保健総合センター計画推進担当部長より比企地域の保健医療福祉サービスの特性について講義がありました。

その後、バスなどで各演習機関に移動。同じ学校にいながらも、普段の授業ではあまり顔を合わせることのない学生同士が、援助が行われている実際の現場から学ぶIP演習がスタートしました。

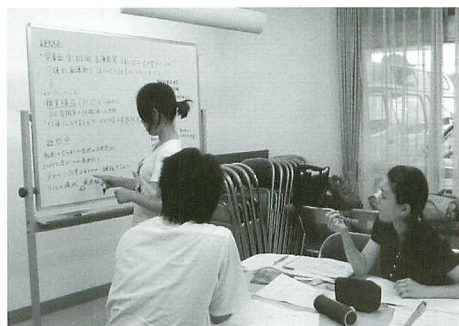
各演習機関では、ファシリテーターによって患者・利用者の方々の同意を頂いた上で、学生には疾病や生活状況の概要を伝達。学生グループは演習の目標にそって計画を立て、カルテの閲覧やご本人や家族へのインタビュー、援助を行っている様々な援助者へのインタビュー等を実施しました。それらを経て得られた情報について、チームメンバーで討議し、様々な角度から利用者・職種・援助方法の多面性を学びました。

### ● 最終日には一般公開で報告会を開催

IP演習最終日の22日には、東松山市総合会館にて、ファシリテーターや演習に協力していただいた方々、また一般の方の参加も得て、報告会を開催しました。各グループは、それぞれ取り組んだ患者・利用者の方々の状況や、援助の様子に触れ、またそれらの内容を知る過程の中で、学生間でどのようなディスカッションがあったのか、どのような相互作用があったのかについて報告しました。

各グループのファシリテーターからも講評を頂き、参加した学生にとっては今後援助者になるにあたって大切にすべき理念や学習課題が得られたと思います。また、本学のIP演習のプログラムとしても、さらに重視すべき点や修正すべき課題を認識でき、非常に有意義な報告会となりました。

(GP実施部会広報担当  
新井利民:社会福祉学科)



## ● 学生とともに創造する学び……学生教育参画会議を結成

新しいカリキュラムにおける連携と統合科目群は、学生とも協働して教育プログラムを創造しようとしています。これは、援助活動においても患者・利用者の意向が尊重されるのと同様、教育プログラムに対する学生の評価や要望をできるだけ取り入れることによって、学生の主体的な学びを育み、質の高い教育内容の発展を目指すものです。

この一環として、「連携と統合科目群学生教育参画会議」が組織化されました。新カリキュラム1年生の各学科から合計13人の学生が選ばれ、連携と統合科目群に対する評価はもちろん、学内外の様々な教育活動への参加が期待されます。

11月28日には記念すべき第1回の会議が開催され、活発な意見交換が行われました。今後の同会議の活躍にご期待ください。



# 生・教職員・地域の皆さんとともに……

## ニーズ取組支援プログラム」選定プロジェクトより～

色ある教育活動支援プログラム」及び「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に選定される演習」(IP演習)の実現を目指して、教育方法の開発と地域の基盤整備・人材養成をとつてご紹介します。



### 2006年度 IPE国際セミナーを開催

専門職連携の実践 (IPW) と教育 (IPE) の展開  
～いかに政策を作り、教育に取り込むか～

埼玉県立大学では、わが国の保健・医療・福祉のサービス改革に向けた「専門職種連携とインタープロフェッショナル教育」の理論、実践、課題等について、IPE国際セミナーを2005年から4年間、継続的に開催することとしています。昨年(2005年)の第1回は、「保健医療福祉サービス改革とインタープロフェッショナル教育」をテーマとして、英国での保健医療福祉サービスの改革とIPEの新しい方向と発展について、講演、セミナーを開催しました。第2回目となる今年は、「IPEに関する英国における政策的な背景や展開について」の講演と、「IPEの実践的なファシリテーター養成」のためのワークショップを企画しました。

#### ●講演会(11月22日)

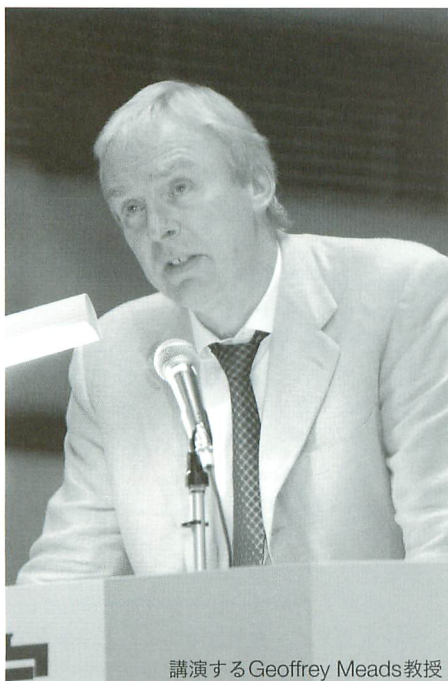
昨年度の成果を受けて、本年度は「IPEの政策決定 policy making」を中心課題にして、「いかに政策を作り、教育に取り込むか」と、副題をつけ、CAIPE(英国専門職連携教育センター)の協力のもとに英国より2名、国内より1名、計3名の講演者をお招きいたしました。

最初の講演者は、Geoffrey Meads教授です。CAIPEの前統括責任者で、University of Warwickのプライマリ・ケア研究センターの教授もされています。長年にわたりプライマリ・ケアや社会的ケアにおける地域組織の運営責任者や政策決定に携わり、またこの方面の研究者として活躍しておられます。Meads先生は、Modern Health Systems and their Impact on Interprofessional Education(近代保健システムとそのIPEへの影響)という題で講演をお願いしました。その国の医療、特にプライマリ・ケアの現状と政策を考慮したIPEが必要という内容でした。

Mr. Graham Ixerは、年少者を対象とするソーシャルワーカーとして活躍後、ソーシャルワーカーの指導者を育成する大学で教鞭をとり、その後、英国政府のソーシャルワーカー担当機関であるThe General Social Care Councilに参加し、長年にわたりソーシャルワーカーの正規登録事業などの多くの国家政策プロジェクトを指導されています。またCAIPEの理事でもあります。The changing policy landscape of social care in England(英国における社会的ケア政策の変遷)という題で、英国のみならず世界でソーシャルワークの歴史を概観し、将来への展望を示されました。

埼玉県立大教授である坂田悱教先生は、整形外科医です。現在、本学のGP実施部会長として、地域開発・地域連携を担当し、地域多職種間連携推進のための拠点作りを行っています。わが国のIPEの実践の現状を報告されました。

参加者は459名で、学生が391名、後援会の方を含む学外者が59名、学内教員が45名でした。講演につづき熱心な討論が行われました。



講演するGeoffrey Meads教授

#### ●IPE理解のためのワークショップ(11月23日)

IPE理解のためのワークショップが、学内外の63名参加を得て10:00～16:00まで行われました。担当はIxerさんと昨年も来日したCAIPEの開発部長であるHelena Lowさんです。6グループに分かれ、講義を交えながら討論を行いました。特にIPEの展開におけるreflection(内省)の重要性が強調されました。青森県や滋賀県、三重県からの参加もあり、IPEへの関心の高さがうかがえました。



IPE理解のためのワークショップの様子

#### ●学内教員対象のワークショップ(11月24日)

IxerさんとLowさんが担当で、昨年からの内容を引き継いで、発展型の学内ワークショップが10:00～16:00まで開催され、30名が参加しました。脳卒中の患者さんの経過を盛り込んだシナリオを用い、ロールプレイも取り入れた内容でした。このロールプレイとは、医師役、看護師役など配役し、演じることで、状況やそれぞれの立場を理解するための教育手法です。普段あまり交流の少ない他学科の教員同士が、互いの専門や教育について理解し、協働するための、とてもよい機会となったと思います。

(国際セミナー実行委員長 菅場一則:健康開発学科)



学内ワークショップの様子